令和元年度　地域懇談会　報告書

地域名	柏市富勢地域ふるさと協議会
日　時	令和元年８月２２日（木）午後１時２５分～午後２時４５分
場　所	布施近隣センター　会議室Ａ
参加者	ふるさと協議会役員等　　：１２名 地域づくり推進部長　　：　１名 布施近隣センター所長　　：　１名 社会福祉協議会職員　　：　１名 地域支援課職員　　：　６名 地域づくりコーディネーター：　２名　　合計：２３名
次　第	別紙のとおり
意見交換	ふるさと協議会役員 ・ふるさと協議会を知ってもらうというキーワードについて。富勢地区は毎月「ふるさと富勢」という広報紙を出している。ただし，どれだけふるさと協議会を認識してもらえているか，というとなかなか浸透していない。なぜならこの地域の中でも，ふるさと協議会の役員は有償だというイメージを持たれている人もいる。今いるメンバーはもちろん無償でやっている。 ・若い人・子育て世代とつながるというキーワードについて。各町会に毎年ふるさと協議会役員推薦者を２名依頼するも出てこない。毎年２つ程度の町会から推薦者が上がってくるが，任期が一年のため，一年やればいいやという人が多く，残る人材がいない。 ・涌井副会長は青少協の副会長も担っているが，青少協は終わっても，仕事は現役であり平日は地域活動に参加できない。 ・会長の職務は平日動きまわることが多い，そのため若い人も集められない。定年者に目を向けても現在６０歳で仕事を辞める人はあまりいない。これからは６５歳を過ぎても仕事をしている人がいる中，７０歳になると自分の余生を趣味に充ててしまい，中々地域に溶け込もうという人がいないため，担い手についても難しいと感じる。 ・報酬を出すというキーワードについて。ふるさと協議会は各町会からの負担金や市からの補助金をもらって運営しているが，そこから有償ボランティアの分は回すほどの資金は捻出できない。富勢は八朔相撲があり，この事業の支出が多く，いま持続できているのは貯金を切り崩しながら実施しているため。おそらくあと２～３年で

	実施はできなくなる。商店や会社に寄付金を募ろうか検討したが中々できない。 ・ふるさと協議会は様々なイベントを行なって地域活性化を図っており，ふるさと協議会が設立された当初はそれがメインの活動で良かった。しかし，今の高齢化社会では，福祉に重点的に力を入れていかなければならないと思う。そこで今の時代にあったふるさと協議会の在り方をどうしていけばよいのかを行政としても考えてほしい。 ・自分たちの後任の人をどう探すか，すぐには見つからない。志無い人が来ても良くない，ふるさと協議会は過渡期にあると思う。 ・今回の地域懇談会を行っても，情報が地域に浸透していかない。ふるさと富勢に載せても，共感してふるさと協議会を手伝ってあげても良いと思う人が来るかどうか難しいと感じる。 ふるさと協議会役員 ・報酬を出すというキーワードについて。報酬という概念は多額なイメージがある。そのため，手当てに相当する金額が妥当と考える。しかし，現在のふるさと協議会の運営では，手当てを支出する分も無いため，現在の市の助成金に加え出してもらいたい。 ・定年者にふるさと協議会のお手伝いを依頼すると「いくらもらえるのか」と言われてしまう。そういった部分を行政として考えてもらいたい。 ・ここで聞いて終わりではなく，９月議会が終わったころに行政の考えを我々に戻してもらいたい。また社協の理事で会議に出ると２，０００～３，０００円の手当てが出るので，ふるさと協議会活動者に対しても，助成金として出してもらいたい。 ふるさと協議会役員 ・ふるさと協議会のお手伝いなど頼んでもやってくれないとなると，市でふるさと協議会の役員を募集（有償でも）し，地域に振り分けるような形をとらないと中々人が集まらない。 柏市職員 ・有償ボランティアについて。旭町の地域懇談会の話の中で，有償で支え合いボランティアを募集したところ，何名か集まった。しかし，体制づくりを始めたところ，個人の名前は電話番号は出さないでほ

	しい，雇用される側の個人情報は守ってほしいという流れになってしまった。 ・本人はボランティアではなくて，仕事として考えていたようで，有償のボランティアであることと，ボランティア性のある仕事とは捉え方が違い，支え合いの趣旨とは異なってしまったことがある。 ・結果，有償での取り組みは中止し，完全ボランティアで再検討しているとのことで，難しい時代に来ていると感じる。 ふるさと協議会役員 ・有償で呼びかけするにも，その裏付けが確定していないと募集するときに話ができない。そのため，市として具体的に方針を打ち出してほしい。 ふるさと協議会役員 ・基本的にこの活動はボランティアだから，有償は納得しない。有償にするなら，組織を解体して新しく募集したほうが良いと思う。 ・以前はボランティアが美化されていたが，現在の若い人は専業主婦がそもそもおらず，皆共働きのため，子どもの行事にくらいしか参加しない中で，他人のために動く人はいない。 ・富勢のふるさと協議会役員は一生懸命やってくれている。そのせいか，今の役員が強すぎて，次の人が入りにくくなっていることが課題。 ふるさと協議会役員 ・６つのキーワードについて。このキーワードは井出氏とともに参加した柏市ふるさと協議会連合会の研修で決まったものと思う。市の動きが見えないので，ふるさと協議会に対して解決策の提案をしてほしい。また，ほかのふるさと協議会の情報を提供してほしい。 ・人集めの町会からの推薦はいつも布施新町からしかあがってこない。 ・報酬を出すというキーワードについて。スポーツ少年団の事務局をしているが，スポーツ課から独立するときに，手当てを予算から出せる仕組みにしてほしいと投げかけ，事務局員と会計には年間手当と行動費を出す規定を設けた。それでも担い手はおらず，手当てだけでなく報酬レベルを要求する若い人が増えていると感じるため，ただお金を出せば人が集まるというわけではないと思う。

	・こういった課題の打開策を行政が提案してくれると良い。事務局の様子や自身が８６歳であることから見ても，２～３年が限界と感じる。 ・６０歳から７０歳の新しい方がふるさと協議会に入りにくく馴染めないということもあり，人のつてで集めるしかない。 ふるさと協議会役員 ・社会福祉協議会の関係について。ふるさと協議会と社協は合併したが，地区社協が残っているし，ふるさと協議会も同じような福祉事業が多いため，ふるさと協議会を無くすという考えはないのか。 ふるさと協議会役員 ・ふるさと協議会は柏市独自の組織であることを考えると，ふるさと協議会で行なっていることは，他の自治体では社協が担っていると考えて良いか。 柏市職員 ・全国的には地域の活動は大きく２つに分かれ，１つは地区社協ベースで地域の福祉を中心とした地域活動を行なっていること。もう１つは公民館を中心とした地域活動。後者は数が少なく全国的な組織という訳ではない。公民館は地域づくりやコミュニティと一体となっているので，公民館が市内に点在し，そこを中心にイベントを行なっていく。また，広域の地域活動を行なっている市は少ないと思われる。 柏市職員 ・地域活動など基本は町会にある。町会ができないことを広域のふるさと協議会で補っている。いま流れとして過疎化などの社会の中で中学校単位や小学校単位での活動という動きが出てきている。柏市は４０年ほど行なってきているので，先進的な取り組みをふるさと協議会として現している。その点で社協との違いが出てきているのだと思う。 ふるさと協議会役員 ・平成２２年に行政指導の中でふるさと協議会と地区社協を組織統合をし，地区社協としては，町会と直接話しができるという点は良

	かった。ただ，市と社協は別の組織であるため，両者から補助金等を受ける際，ふるさと協議会内で会計処理が多少複雑となっている。このことから一体化してもらえるとありがたい。 ふるさと協議会役員 ・資料にある各地域で取り組んでいる事業の①防犯・防災②支え合い（いきいきセンターや支え合い推進委員）③子育て支援（こども食堂）は実施できている。 ふるさと協議会役員 ・福祉事業部の中にも子育て事業はある。 ふるさと協議会役員 ・昨日，ミニ集会が富勢中で行われ，防災をテーマに防災安全課が話をしてくれた。地域の防災はどうするかということで，防災の組織をつくって運営してほしいと，行政は地域に投げるだけだと感じた。地域の人たちはわからないことが多いので，そこで行政が先頭に立って地域と一緒に組織をつくれば良いと思う。 ・地域懇談会も同じで，担い手不足についての行政の方向性や他地域の成功例を持ってきてほしい。そうしたことから動いていくことが可能になると感じる。 柏市職員 ・６つのキーワードの資料について，柏市ふるさと協議会連合会の研修の中で作られたものだが，市民や地域支援課の職員，当課のコーディネーターも交えて作成したもの。その中で「柏市として」という部分は各キーワード対して市は何ができるか，ということで協力しながら取り組んでいく一例を示したものとなっている。 ・他地域の例については，ある地域で実施したから全市的に効果的だと中々言えないが，④一緒に活動してくれる仲間を増やすというキーワードについては，南部や増尾地域にて，イベントだけのサポーターを募ってお手伝いを増やしていくという話があった。例えば富勢だと，八朔相撲だけ手伝ってくれないか，少しずつ関わっていくサポーターを増やしていくことが考えられる。 ・役員の担い手についての例について。中新宿町会では毎年役員の公募をかけ，公募チラシを回覧するが，「あなたの老後の選択肢に

	地域に貢献することも考えてみませんか？」といったニュアンスの文を書いており，毎年２～３名は役員候補が挙がってくるとのこと。 ・報酬について。有償ボランティアという点で，光ヶ丘地域ふるさと協議会では，資料の作成や発送など事務的な仕事のみを対象とした事務局のアルバイトを時給で雇っている。 ・光ヶ丘団地自治会では，自治会に交付される資源回収報償金を利用して，資源ごみの当番をシルバー人材センターに委託をしている。こういった町会役員の負担を軽減するなど少しづつ工夫をしているところもある。 ・今後も他地域の事例を示しながら協力できればと思う。 ふるさと協議会役員 ・富勢ではやっている。それでもうまくいかないことがある，そこを的確に助言をもらいたい。 柏市職員 ・私自身，富勢の北柏町会の一員でもあるが，行政へのリクエストしても，できることは限られていると思う。そのため北柏町会では，自分たちでできることはやっていこうと考えている。 ・八朔相撲は富勢だけの行事であり，若いチームが参加するという場が増えたら，現状の小学生のみという枠を広げることで，何か新しいきっかけになるのではないかと思う。 ・北柏町会のハロウィンも全く知らない人とも関わることができて，最初の年は厳しいかもしれないが，事業がスムーズに進んでいくほどになっている。 ふるさと協議会役員 ・そういうアイデアを持ってきてもらいたい。特に北柏町会は若い人が町会運営しているので，若い人のアイデアを町会を越えた富勢の一員として，ふるさと協議会に提案し，地域支援課に意見をあげるような形にしてもらいたい。 ・若い人への声掛けは，青少協やおやじの会，ＰＴＡに行っている。私自身，青少協の会長も担っているので，ふるさと協議会のつながりは十分もっており，学校とも話ができる状態である。しかし，そういった組織に協力してもらうことと，ふるさと協議会を維持して

	いくことは少し違った問題であるので，別の方法で考えて行政から助言をもらいたい。 ふるさと協議会役員 ・防災について。利根町会のエリアでは，県立柏高校など学校と協力している。 ・布施新田エリアは，毎年９月に富勢小学校の体育館を借りて避難訓練や炊き出しをしている。 ・北柏も独自に防災訓練を行なっている。 ・富勢地域２０の町会の避難場所は割り振りもしている。 ふるさと協議会役員 ・各町会が避難したあとの避難所開設を誰が行なうのか，物資の取り扱いなど指揮系統がないとできない。避難所運営の仕方を示してほしい。
いただいたご意見のまとめ	（地域の意見） ・担い手不足の問題についてかなり深刻な状況であるという話を伺った。 ・このままだと２～３年が限界であるという話を伺った。 ・若い人を集めていく，社協との関係を見直す，有償ボランティアについては是非も含めて，これらの市としての考えを示してほしいというご依頼をいただいた。 ・有償ボランティアについて，補助金の内，いくらを有償分に充てて良いのかという指針がほしいというご依頼をいただいた。 ・防災について，避難所など地域に投げられてしまっており，地域としても取り組みにくいというお話を伺った。（防災安全課共有事項） （柏市職員の感想） ・担い手不足の問題について役員は皆同じ危機感を持っていると感じた。 ・やれることはやっているということについては，他の地域の事例を交えながら一緒に考えていければと思う。